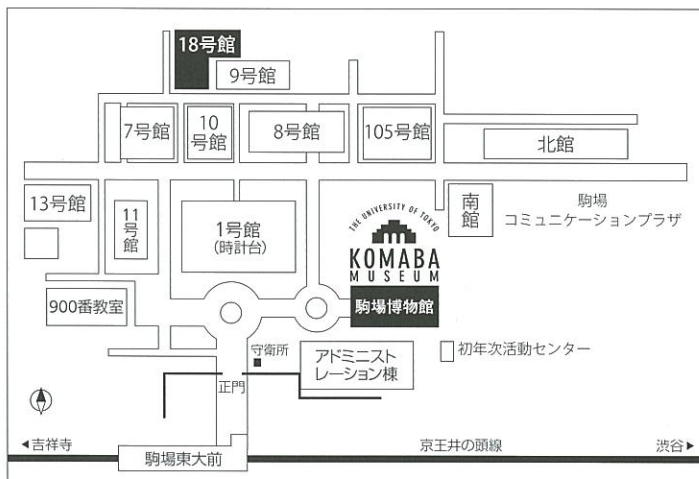
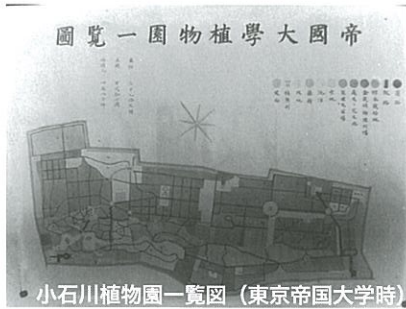


小石川植物園と植物学の世界

小石川植物園は、徳川綱吉の幼時の居邸であった白山御殿の地に貞享元（1684）年に開設された小石川御薬園を引き継ぎ、明治 10（1877）年に東京大学の附属施設となりました。当時、すでに西洋の植物学に触れていた本草学者伊藤圭介と賀来飛霞が植物園で植物取調べを行なう一方、神田一ツ橋の植物学教室（明治 18 年に本郷構内に移転）ではアメリカ帰りの矢田部良吉が研究をリードし、植物園の管理（園長）も担当していました。平瀬作五郎による「イチョウの精子発見」の偉業が達成された直後、明治 30 年には植物学教室が植物園内に移転して、昭和 9 年までの間、小石川植物園は文字通り日本の植物研究センターでした。松村任三やその弟子によって分類学が推進されたのはもちろん、三好学、藤井健次郎やその弟子により形態学、生理学、生態学、細胞学、遺伝学といった植物学の様々な分野が発展しました。1980 年頃から植物分類学の研究が植物園で再出発し、研究・教育・研究支援施設として活発に活動しています。

本展覧会では、『小石川植物園草木図説』とその元絵図や、最近調査された資料などを用いて小石川植物園や植物学についての歴史・研究について解説いたします。現在行われている研究の中からは、サトイモ科の植物について、小笠原の植物について、被子植物について、フローラ研究についてをご紹介します。

9 月 17 日（土）～19 日（月・祝）には、日本植物学会大会が駒場キャンパス内で行われます。公開シンポジウムおよび高校生の研究ポスター発表は 9 月 19 日（月・祝）に開催されます。その他、ギャラリートークや体験・参加型のイベントなどもあわせて実施する予定です。日本植物学会第 75 回大会に関する最新情報は、ホームページ <http://bsj.or.jp/bsj75/>にてご確認ください。



東京大学 駒場博物館 アクセス：
京王井の頭線「駒場東大前」駅東口より徒歩約 3 分。駐車場等ございませんので公共交通機関をご利用下さい。

社団法人 日本植物学会 <http://bsj.or.jp/>

「社団法人 日本植物学会」は、植物学に関する研究の進展と知識の普及を図り、それによって学術全般の発展に寄与する事を目的に設立された学術団体です。そして、内閣府男女共同参画局の主催する、チャレンジキャンペーン「～女子高校生・学生の理工系分野への選択～」の協力団体でもあります。

本展覧会中に行われる公開シンポジウムは「東京都の島の植物と生物多様性：伊豆諸島から小笠原まで」と題し、第 75 回大会および本展の最終日 9 月 19 日（月・祝）の午後、13 号館において開催する予定です。

社団法人 日本植物園協会 <http://www.syokubutsuen-kyokai.jp/>

「社団法人 日本植物園協会」は全国の植物園で構成された団体で、前身である任意団体日本植物園協会（昭和 22 年創立）を礎に、昭和 41 年（1966 年）に社団法人日本植物園協会として誕生しました。

植物園等の施設についての調査研究や文献収集、関連の学術図書刊行、知識の交換、ならびに会員相互や関係団体との連絡提携を緊密にすることなどを通じて、植物園事業の普及発展に寄与することを目的とします。現在、日本の代表的な植物園 112 園（平成 21 年 3 月現在）が加入しています。